

馬づら電車

絶妙に言い当てていると感心する名前である。これは、岩手交通（旧花巻電鉄）の花巻～南花巻温泉間の軽便軌道線として活躍していたものですが、昔の道路は幅が狭かったところへ自動車が増えてきて、電車は、肩身の狭い思いで橋っていたのでしょう。軌道幅762mmの軽便鉄道のため電車の幅は、1.6mと車内で大人が手を広げると窓から窓まで届きます。両側に椅子があり、座ると膝と膝が当りそうな距離です。写真は、廃線後の車両を静態保存しているものです。（NET情報）



こちらは、名鉄美濃町線の600系「馬づら電車」です。

1067mmの一人前の軌道で市街地と郊外を結んでいるために市街地では、折り畳みタラップが出てきて道路面から乗降し、郊外の駅では、フラットホームからそのママ乗降できるというユニーク



な車両です。郊外の道路沿いで急カーブを曲がるために、前面の角を削ったために馬づらになったもので、車内は郊外長時間乗車を考慮してクロスシートが設置されていて、車両幅は少し広がっています。屋上に乗っているのは、クーラではなく、床下に置けなかった「抵抗器」を積載したもので、車両冷房化の波が来たときには、対応できなくて引退しています。